

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成21年9月3日(2009.9.3)

【公表番号】特表2009-502140(P2009-502140A)

【公表日】平成21年1月29日(2009.1.29)

【年通号数】公開・登録公報2009-004

【出願番号】特願2008-523046(P2008-523046)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 0 7 K	19/00	(2006.01)
C 0 7 K	14/705	(2006.01)
C 0 7 K	14/435	(2006.01)
A 0 1 K	67/027	(2006.01)
C 1 2 Q	1/02	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 K	38/04	(2006.01)
A 6 1 P	5/00	(2006.01)
A 6 1 P	5/50	(2006.01)
A 6 1 P	5/06	(2006.01)
A 6 1 P	5/48	(2006.01)
A 6 1 P	5/02	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	21/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 K	35/12	(2006.01)
A 6 1 K	35/76	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/12	(2006.01)
A 6 1 P	31/18	(2006.01)
A 6 1 P	31/20	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)
A 6 1 P	7/00	(2006.01)
A 6 1 P	7/06	(2006.01)
A 6 1 K	35/28	(2006.01)
A 6 1 K	35/30	(2006.01)
A 6 1 K	35/36	(2006.01)
A 6 1 K	35/48	(2006.01)
A 6 1 P	27/02	(2006.01)
A 6 1 P	25/02	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
C 0 7 K	19/00	
C 0 7 K	14/705	
C 0 7 K	14/435	
A 0 1 K	67/027	
C 1 2 Q	1/02	

A 6 1 K 37/02
A 6 1 K 48/00
A 6 1 K 37/43
A 6 1 P 5/00
A 6 1 P 5/50
A 6 1 P 5/06
A 6 1 P 5/48
A 6 1 P 5/02
A 6 1 P 43/00 1 1 1
A 6 1 P 43/00 1 0 7
A 6 1 P 21/00
A 6 1 P 35/00
A 6 1 P 43/00 1 0 5
A 6 1 P 25/00
A 6 1 K 35/12
A 6 1 K 35/76
A 6 1 P 9/00
A 6 1 P 29/00
A 6 1 P 31/12
A 6 1 P 31/18
A 6 1 P 31/20
A 6 1 P 43/00 1 0 1
A 6 1 P 17/00
A 6 1 P 7/00
A 6 1 P 7/06
A 6 1 K 35/28
A 6 1 K 35/30
A 6 1 K 35/36
A 6 1 K 35/48
A 6 1 P 27/02
A 6 1 P 25/02 1 0 1
A 6 1 P 25/02

【手続補正書】

【提出日】平成21年7月14日(2009.7.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

薬物の潜在的なイオンチャネル調節特性を予測するための方法であつて：

(a) 細胞において光活性化陽イオンチャネルタンパク質および対象とするイオンチャネルを発現させること；

(b) 前記細胞を光に曝露し、前記細胞における第一応答をモニタリングすること；

(c) 前記細胞を候補薬物に曝露すること；

(d) 前記細胞をさらに光に曝露し、前記細胞における第二応答をモニタリングすること；

(e) 第一応答と第二応答との比較に基づいて、前記候補薬物のイオンチャネル調節特

性を測定すること、
を含む前記方法。

【請求項 2】

前記応答のモニタリングが、前記細胞における蛍光の変化を光学的画像化することを含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記応答のモニタリングが、前記細胞におけるシグナル伝達系をモニタリングすることを含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記シグナル伝達系のモニタリングが、抗体、蛍光性小分子、または遺伝子にコードされた指示薬を用いて行われる、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

前記対象とするイオンチャネルに対する前記候補薬物の選択的効果を評価するために実行される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

チャネルスプライスバリエント、チャネルアイソフォーム、ニューロンタイプ毎に発現度合が異なるチャネル、脳の別々の部分毎に発現度合が異なるチャネル、別々の臓器毎に発現度合が異なるチャネル、または時間の経過に伴い発現度合が異なるチャネルに対する、前記薬物の、差異のある効果が評価される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

対象とする前記イオンチャネルが、H E R G チャネルである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

前記光活性化陽イオンチャネルタンパク質が、C h R 2、C h o p 2、C h R 2 - 3 1 0、またはC h o p 2 - 3 1 0 である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

前記光活性化陽イオンチャネルタンパク質が、配列番号 2 または 3 の配列によってコードされる、請求項 1 に記載の方法。